

北海道東部海岸で採集された打ち上げ貝（予報）

山 代 淳 一*

On the Molluscan shells from the Pacific coast of the Eastern Hokkaido

Junichi YAMASHIRO*

1. はじめに

北海道東部に位置する釧路市は、南側で太平洋に面している。そのため周辺海域で産する海産動植物は、きわめて多彩で、特に漁業の対象となる産業種については、様々な研究が進められてきた。だがなかには、十分な研究がなされていないものも多く、有用種以外の貝類については、資料の乏しいのが実情である。

釧路産貝類資料としては、北海道立釧路水産試験場により釧路沖で採集された巻貝63種、二枚貝41種がある。これらの標本は現在、釧路市立博物館に寄贈されて展示している。その他筆者の知る範囲では、桜井基博（1972）らによりまとめられた巻貝33種、二枚貝20種のリストがあるにとどまっている。そのため筆者は、釧路周辺の海岸域に生息する貝類相の把握を目的として、打ち上げ貝の採集を重ねてきた。

その結果採集した種は桜井らの53種にも及ばないが、未報告の種がいくらか見出された。そのため小論では採集した種数について報告し、詳細な点については別の機会に報告したい。尚、元博物館長の故澤四郎氏には資料の採取を含め御教示いただいた。また、埋蔵文化財調査センター西幸隆氏には、資料採取のご協力いただき、写真撮影は当館の加藤春男氏による。以上の方々に厚くお礼申し上げる。

2. 採集地

北海道東部の海岸域は、釧路市中心部の旧釧路川を境に東は起伏の激しい岩石海岸、西は単調な弧を描く砂浜海岸に大別される。

(1) 釧路市大楽毛海岸

旧釧路川から十勝の広尾港に至る約120kmの海岸では、緩やかな弧を描く平滑な砂浜が続いている。その間に位置する釧路市大楽毛海岸は、市内中心部より約7 km西方の釧路湿原南部に接する典型的砂浜海岸である。これらの海岸砂は、湿原西方の諸河川から搬出されたものが、西から東方に流れる沿岸流に作用され、海岸や海底に堆積したと考えられている。

(2) 釧路市千代ノ浦海岸

釧路市街地から約2 km南東に位置した岩礁海岸ではあるが、僅かに砂浜もみられる海岸である。この海岸は近年、堤防が建造され漁港として活用されている。

千代ノ浦海岸の内陸には、縄文海進により形成された海跡湖・春採湖が配置されるが、海岸砂は海退時に現在の海岸に沿って押し上げられた砂浜堤である。

(3) 釧路市岩見浜

千代ノ浦海岸からさらに約4 km南東の段丘や海食崖の発達する海岸である。地質では、釧路地方最古で市内では唯一の白亜紀末期層（根室層群汐見層）の露頭や、釧



図1 採集地点 (●)

*釧路市立博物館 (Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido 085-0822)

路炭田を構成する古第三紀層（浦幌層群春採層）が露出する。海岸には露頭炭が現われ、安政3年（1856年）江戸幕府が道内で最初に石炭を採掘した海岸でもある。

（4）釧路町昆布森海岸

釧路市に隣接する釧路町の昆布森海岸は、釧路市中心部より約13km東方に位置している。昆布森市街地は、チヨロベツ川に台地が開析された谷の低地をなし、市街地を囲むように漁港が築かれている。そのため海岸の一部は、打ち上げられた砂浜で構成されるが、市街地の両端からはほぼ連続して、海食崖が形成されている。

（5）釧路町十町瀬海岸

昆布森海岸よりさらに約5km東方に位置する海岸である。海岸線には台地が迫り、太平洋の荒波に浸食されて断崖絶壁を形成している。また、海上には浸食作用でとり残されたタコ岩等奇怪な形の岩が配置され、複雑な海岸地形を呈している。尚、断崖を形成する古第三紀層より、新種のバク類上顎化石が産出したことでも知られている。

3. 打ち上げ貝について

（1）大楽毛海岸

大楽毛海岸での採集は、1985年7月16日に実施した。採集した貝類とそれらの点数は表1に示したが、腹足類9種、二枚貝類9種である。二枚貝の大部分は、片殻の状態での採集であったが、貝の多くは破損や摩耗が少なく容易に同定することが可能であった。

これら貝類の生息環境をみると、生息深度は潮間帯に生息する種が7種で、深度30mの亜潮間帯まで範囲を広げるとほとんどを占めている。生息底質は、腹足類ではシロガイ、エゾフネガイなど岩礁・岩礫に生息する種が半数を占め、それ以外砂礫ないし泥底に生息する種である。二枚貝では、ピノスガイをはじめ細砂ないし砂質がちの泥底に生息する種が大半を占める。なかでも細砂底を好むウバガイ、細砂泥底を生息の場とするベニサラガイの採集固体数がそれらの中では11点と最も多かった。尚、表に示した最後部の生態に関する記載は波部(1977)、波部・伊藤(1982)に基づき作成した。

（2）千代ノ浦海岸

千代ノ浦海岸では、1999年8月7日に177固体採集し腹足類7種、二枚貝類4種を確認した。同定した種の個体数は潮間帯礫間の泥底に生息するヌノメアサリが56点と最も多く、次いで潮間帯岩礁に生息するシロガイとエゾフネガイがそれぞれ55、40固体であった。

採集した貝類全体の生息環境をみると、生息深度を潮間帯とする種は、11種中8種を占めた。それらの生息底質は、岩礁や礫に生息場を持つ種が7種を示し、細砂から泥底に生息する種は3種である。

（3）岩見浜海岸

筆者は同地で1985年7月25日採集調査した結果、腹足類5種、二枚貝類7種が知られた。貝類はヌノメアサリ

が11固体と最も多くエゾフネガイがこれにつづく。これら貝類を生息環境についてみると、腹足類では潮間帯の岩礁に生息する種が大半を占めるが、浅海の泥底に生息するアヤボラもみられた。二枚貝類もすべて潮間帯やその付近の生息深度の浅い種で占められている。それらの生息底質は大部分が岩礁であるが、固体数の多いヌノメアサリは泥底を生息場とする種である。

（4）昆布森海岸

同地では、1985年8月7日に腹足類4種、二枚貝7種を採集した。また、1999年7月28日には腹足類3種、二枚貝2種を確認し、前回同地での調査では確認に至らなかったユキノカサガイとチシマバイを新たに採集した。

貝類は、ムラサキガイをはじめ潮間帯岩礁に生息する種が7種と優勢だが、固体数では潮間帯礫間の泥底に生息するヌノメアサリが25点と最も多かった。また、他の4産地ではみられない潮間帯から水深10mの砂底に生息するオオミゾガイ4固体が採集された。

（5）十町瀬海岸

十町瀬海岸では1982年7月24日、腹足類9種、二枚貝9種を確認した。これら貝類は、潮間帯及び潮間帯下に生息する種が半数を占め、大部分が亜潮間帯以浅に深度を持っている。

巻貝では、潮間帯及び潮間帯付近の岩礁に生息する種が5種を占め、同海岸で最も多く採集されたシロガイとそれに次ぐチシマバイがこれらに含まれる。また、他の産地では確認されなかった水深20～50mの泥底に生息するヒゲマキナワボラ7固体も採集された。二枚貝は潮間帯の岩礁や岩礫に生息する種は4種であったが、泥或いは砂底を生息場とする種も4種見られた。

4. 考 察

釧路市周辺で採集した打ち上げ貝は、腹足類17種、二枚貝類19種で、それらの生息深度は大半が潮間帯およびその付近に生息する種で占められている。これらのうち釧路水産試験場の標本に含まれない種がホソスジシカゲガイ、フトオビクイガイの2種、桜井らのリストに記載されていない種は16種知られた。だが、これらの種数は水試で採集した104種の約35%、桜井らによる53種の約68%にとどまっている。打ち上げ貝はその日の気象条件に大きく影響され種類が安定しているとは限らない。また、季節による種の変化の可能性も考えられる。採集した貝類の種数が36種にとどまったのは、各地点での調査が1回程度によるものと、採集日が7月中旬～8月上旬に集中したことも原因の一つであろう。

36種中5地点共に採集された貝類は、潮間帯岩礁に生息するシロガイ、エゾフネガイ、ウチムラサキガイ、泥底に生息場を持つアヤボラ、ヌノメアサリの5種である。また、各調査地点における貝類の生息底質をみると、大楽毛海岸では岩礁性の貝類は39%、砂質から泥底に生息する種は61%で構成されている。一方、岩石海岸域の他

表1 各採集地点の貝類と個体数

種名	採集地					生息深度及び底質
	大楽毛	千代ノ浦	岩見浜	昆布森	十町瀬	
Class Gastropoda 腹足綱						
Family Acmaeidae ユキノカサガイ科						
<i>Acmaea (Niveotecture) pallida</i> (GOULD) ユキノカサガイ		5		1	2	潮間帯～10m、岩礁
<i>Collisella cassis shirogai</i> HABE et ITO シロガイ	2	55	6	20	45	潮間帯、岩礁
Family Turbinidae リュウテンガイ科						
<i>Homalopoma amussitatum</i> (GOULD) エゾサンショウガイ	1					5～20m、砂礫底
Family Littorinidae タマキビガイ科						
<i>Neritrema sitchana</i> (PHILIPPI) クロタマキビ		2				潮間帯、岩礁
Family Potamididae ウミミナ科						
<i>Batillaria cumingii</i> (CROSSE) ホソウミミナ	2					潮間帯、砂礫底
Family Trichotropidae ヒゲマキナワボラ科						
<i>Trichotropis bicarinata</i> (SOWERBY) ヒゲマキナワボラ					7	20～50m、泥底
Family Calyptraeidae カリバガサガイ科						
<i>Crepidula grandis</i> MIDDENDORFF エゾフネガイ	1	40	9	14	13	潮間帯付近、岩礁
Family Naticidae タマガイ科						
<i>Tectonatica hirasei</i> (PILSBRY) ヒラセタマガイ			1			潮間帯下、細砂底
<i>Tectonatica janthostoma</i> (DESHAYES) チシマタガマイ	5				3	10～50m、砂泥底
Family Cymatiidae フジツガイ科						
<i>Fusitriton oregonensis</i> (REDFIELD) アヤボラ	4	1	1	2	6	30～300m、泥底
Family Muricidae アクキガイ科						
<i>Ocenebra japonica</i> (DUNKER) オオウヨウラクガイ	1					潮間帯、岩礫底
Family Pyrenidae フトコロガイ科						
<i>Mitrella tenuis</i> (GASKOIN) コウダカマツムシガイ		1				潮間帯、礫間
Family Buccinidae エゾバイ科						
<i>Neptunea (Barbitonia) arthritica</i> (BERNARDI) ヒメエゾボラ	1		1			潮間帯付近、岩礁
<i>Buccinum opisthoplectum</i> DALL クビレバイ				3	2	10～200m、
<i>Buccinum polare mirandum</i> (SMITH) コエゾバイ		1			2	潮間帯下、岩礁
<i>Buccinum middendorffi</i> VERKRUZEN エゾバイ	1					20～40m、岩礁
<i>Buccinum chishimanum</i> PILSBRY チシマバイ				3	23	潮間帯下、岩礁
Class Bivalvia 二枚貝綱						
Family Arcidae フネガイ科						
<i>Porterius dalli</i> (SMITH) シコロエガイ				4		潮間帯下～20m、岩礁
<i>Arca boucardi</i> JOUSSEAUME コベルトフネガイ	5					潮間帯～20m、岩礁
Family Mytilidae イガイ科						
<i>Mytilus edulis</i> LINNE ムサラキイガイ	2	7	2	2	9	潮間帯付近、岩礁
<i>Mytilus coruscus</i> GOULD イガイ					2	潮間帯～20m、岩礁
<i>Modiolus modiolus</i> (LINNE) エゾヒバリガイ			2	1	4	潮間帯下～10m、岩礁
<i>Musculus laevigatus</i> (GRAY) ハブタエタマエガイ			2	6		潮間帯下～10m、泥底
Family Pectinidae イタヤガイ科						
<i>Chlamys (Swiftopecten) swifti</i> (BERNARDI) エゾキンチャクガイ					1	潮間帯下～20m、岩礫
<i>Patinopecten yessoensis</i> (JAY) ホタテガイ			1			10～30m、細砂底
Family Cardiidae ザルガイ科						
<i>Clinocardium uchidai</i> HABE ホソスジイシカゲガイ		8	6	2	2	10～20m、細砂底
Family Veneridae シコロガイ科						
<i>Mercenaria stimpsoni</i> (GOULD) ビノスガイ	1					潮間帯～10m、細砂底
<i>Callista (Ezocallista) brevisiphonata</i> (CARPENTER) エゾワスレガイ	1					潮間帯下～30m、砂底
<i>Protothaca (Novathaca) euglypta</i> (SOWERBY) スノメアサリ	1	56	11	25	7	潮間帯、礫間の泥底
Family Gariidae アシガイ科						
<i>Nuttallia ezonis</i> KURODA et HABE エゾイソシジミ	2				2	潮間帯下、細砂底
Family Mactridae バカガイ科						
<i>Spisula sachalinensis</i> (SCHRENCK) ウバガイ	11					20～40m、細砂底
Family Tellinidae ニッコウガイ科						
<i>Peronidia lutea</i> (WOOD) ベニサラガイ	11					15～50m、細砂泥底
<i>Peronidia zygoensis</i> (HATAI et NISIYAMA) アラスジサラガイ	1					30～60m、細砂泥底
<i>Macoma incongrua</i> (V.MARTENS) ヒメシラトリガイ		1			2	潮間帯～10m、泥底
Family Hiatellidae キヌマトイガイ科						
<i>Siliqua alta</i> (BRODERIP et SOWERBY) オオミゾガイ				4		潮間帯下～10m、砂底
Family Lyonsiidae サザナミガイ科						
<i>Entodesma (Agriodesma) navicula naviculoides</i> YOKOYAMA フトオビクイガイ		1	2	5	8	潮間帯下、海草の根間

の4産地で採集された貝類の底質は、岩礁に生息する種が58~73%の範囲で占めている。つまり砂浜海岸を形成する大楽毛海岸一帯の底質は、一部岩礁があるものの全体的に細砂から細砂泥底であり、他の4産地は細砂から泥底もあるが全体的に岩礁や岩礫が広がることを示している。これらは打ち上げ貝が採集地点における海岸域の環境を表し、それらの海域に生息する貝種の違いを顕著に表す結果であると考えられる。

5. 摘要

1. 筆者は、釧路周辺の海岸域に生息する貝類相把握を目的として、打ち上げ貝の採集を重ねてきた。採集地は砂浜海岸域1ヶ所、岩石海岸域4ヶ所、計5ヶ所の海岸であるが、採集された貝類は巻貝類17種、二枚貝類19種の計36種であった。

2. 打ち上げ貝は、その日の気象条件に大きく作用され、季節による種の変化の可能性も考えられる。採集された貝類の種数が少ないのは、調査が各地点で1回程度によるものと、採集日が7月中旬~8月上旬に集中したことも原因の一つと考えられる。

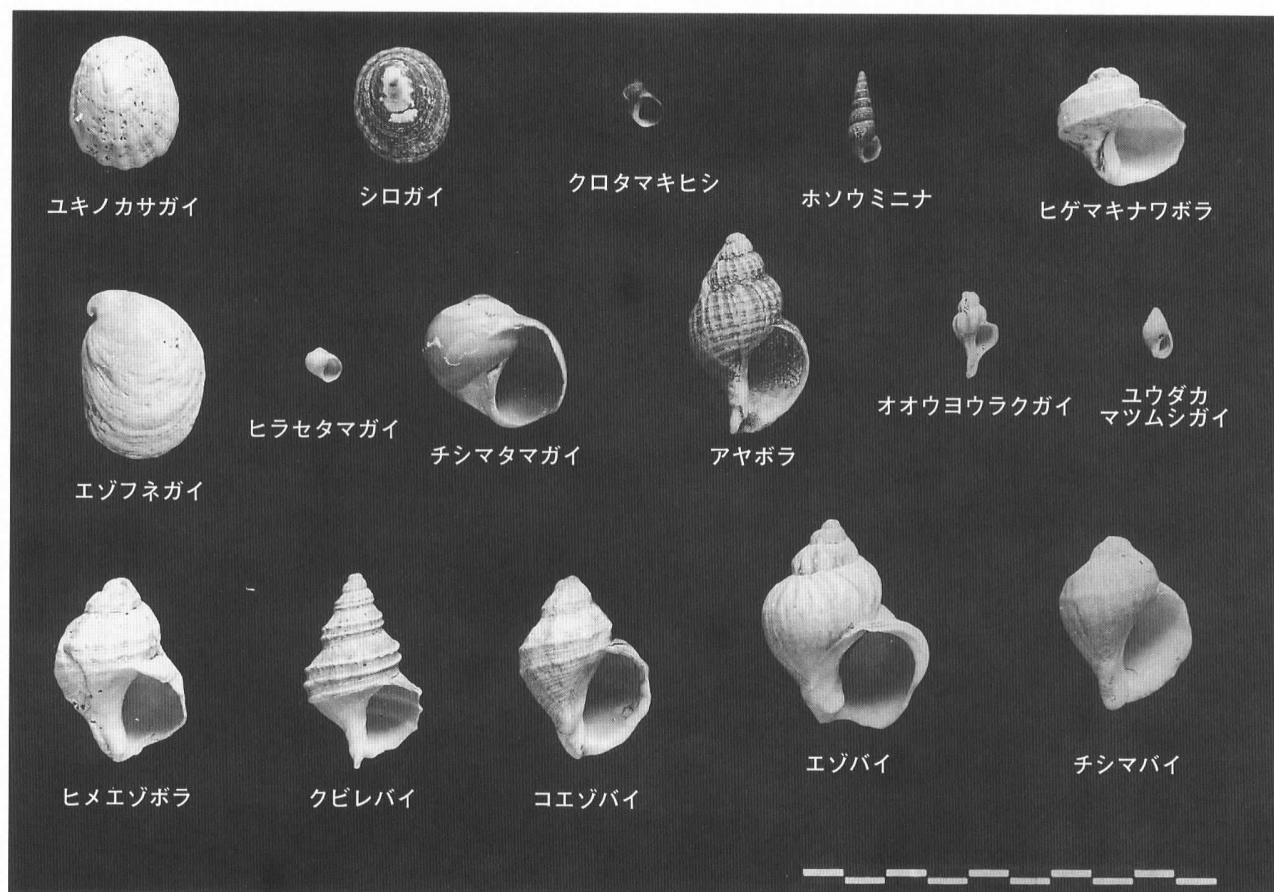
3. これら貝類の生息環境は、大半が潮間帯及びその周辺に生息する種で占められている。それらの生息底質は、砂浜海岸では岩礁性の貝類39%、砂質から泥底に生息する種は61%で構成されていた。一方、岩石海岸域の他の

4産地で採集した貝類の底質は、岩礁に生息する種が58~73%の範囲に及んでいた。

4. より詳細に述べると、砂浜海岸を形成する海岸一帯の底質は、一部岩礁があるものの全体的に細砂から細砂泥底であり、他の4産地は細砂から泥底もあるが全体的に岩礁や岩礫が広がることを示している。これらは打ち上げ貝が採集地点における海岸域の環境を表し、さらにそれらの海域に生息する貝種の違いを顕著に表す結果であると考えられる。

6. 引用文献

- 吉良哲明 (1983) 原色日本貝類図鑑 保育社
 桜井基博他 (1972) 釧路の魚と漁業 釧路叢書第13巻 釧路市 pp.338-353
 波部忠重 (1977) 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/掘足綱 北隆館
 ——— (1984) 続原色日本貝類図鑑 保育社
 ——— (1996) 学研生物図鑑貝I 巻貝 学習研究社
 波部忠重・伊藤 潔 (1982) 原色世界貝類図鑑I 北太平洋編 保育社
 波部忠重・奥谷喬司 (1996) 学研生物図鑑貝II 二枚貝 学習研究社
 波部忠重・小菅貞男 (1983) 標準原色図鑑全集3 貝 保育社



採集された打ち上げ貝 (腹足綱)